

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370102

研究課題名(和文) 美術教育の哲学的基礎づけ

研究課題名(英文) Philosophical Foundation of Art Education

研究代表者

児美川 佳代子(小松佳代子)(Komikawa, Kayoko)

東京藝術大学・美術学部・准教授

研究者番号：50292800

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、美術教育の意義について原理的に考えることを目指した。具体的には以下の5つの視点から考察を行った。

(1) 美術教育の目的の歴史的変遷。(2) 学校における美術の理論的位置づけ。(3) 教育哲学研究における美術への視点。(4) 現代思想から見る美術教育の意義。(5) 芸術に基づく研究(Art-based Research)の可能性

研究成果の概要(英文)：This research project has aimed at examining the meaning of art education. Concretely it deliberated the following five points.

(1)The historical transition of the purpose of art education.(2)The theoretical meaning of art in education.(3)The position of art in the research on philosophy of education.(4)The meaning of art education through contemporary philosophical thoughts.
(5)The possibility of art-based research.

研究分野：教育学

キーワード：美術教育 解放の美術教育 芸術に基づく研究

1. 研究開始当初の背景

美的人間形成に関する研究は、F.シラーの『美育書簡』の近代教育学への位置づけを中心として、特にドイツ教育思想史において展開されてきた。日本における1998年教育思想史学会のシンポジウム「美と教育」にもそれは表れている。K.モレンハウアーの『美的人間形成の根本問題』の翻訳を経て、2002年から2005年にかけて行われた科研費補助金による共同研究「『美的なもの』の教育的影響に関する理論的・文化比較的研究」では、E.カッシーラーのシンボル論や教師と生徒のふるまいに着目した研究、あるいは本研究の分担研究者である樋口聡による「身」という概念の豊穡性を論じた研究などがなされている。こうした動向は、教育思想史学会『教育思想史コメントール』に「『美と教育』は如何に論じられたか？」としてまとめられている。教育哲学における美的なものへの関心は、近代教育学の行き詰まりを克服する契機を「美的なもの」に求めようとする志向性を持っていた。このように、教育哲学から美術教育に対する期待は近年高まっていると言えるが、そうした期待に応答するような美術教育の哲学的研究は十分に行われているとは言えない状況にある。戦後直後から1980年代にかけては、美学・美術史を専攻する研究者が美術教育について論じたものはあるが、そうした動向も現在ではあまり見られない。教科教育に限定されない美術教育を含めた哲学的基礎づけがなされていない状況にある。音楽教育については、B.リーマが、J.デューイやS.ランガーに依拠して『音楽教育の哲学』を著書を出し、哲学的な基礎づけが行われている。美術教育においては、J.デューイの『経験としての芸術』H.リードの『芸術による教育』などがあるが、いずれも20世紀前半の著作であり、近年の動向がどのようになっているのか明確ではない状況であった。

2. 研究の目的

本研究は、美術教育の意義と重要性について哲学的に基礎づけようとするものである。従来、美術教育をめぐる研究は、図工・美術科教育の実践研究及びその歴史研究が中心であり、美的教育の特殊性や美術の人間形成的意味に関する本質的な議論は十分になされていない。また、美術に関する哲学的研究である美学においては、教育に関する議論は極めて少ない。このような状況に対して本研究は、美術教育の特殊性、美術教育における身体・感性の位置、判断力養成としての美術教育の意味について考察を進める。内外の教育哲学・美学研究者とも研究交流を図りながら、最終的には「美術教育の哲学」を構築することを目指す。特に、美学や教育哲学において、美術教育がどのように論じられてきたのか、先行研究の整理を行うとともに、美的経験の人間形成における重要性に着目して

いる内外の研究者と意見交換を行い、美術の教育的意義について原理的に考察する。また美術に期待を寄せる教育哲学研究を、美術教育の側から問い直すことで、美的なものに期待を寄せる教育学の枠組みそのものを問い直し、美術教育を介して教育学の新たな展開を促すことも目指す。

3. 研究の方法

研究代表者及び研究分担者がそれぞれの専門分野に即して美術教育の哲学について考察する。

科学思想史の立場から認識論を研究してきた(『フランス科学認識論の系譜』『科学的思考の考古学』など)金森修は、カッシーラー、ランガーのシンボル論から人間の美的認識を読み解くことを構想している。

樋口聡は、デューイのプラグマティズムに依拠しながら身体感性論(somaesthetics)の理論と実践を推し進めている R.シュスターマン『プラグマティズムと哲学の実践』『身体意識と行為』などの邦訳者でもあり、長年シュスターマンと共同研究を進めている(『学習論として見た『身体感性論』の意義と可能性 - R.Shusterman の所論をめぐって』)。その研究を発展させて身体感性論によって美術教育を基礎づける。

研究代表者である小松佳代子は、美術やスポーツにおける暗黙知や身体知がいかに関与されていくかに着目しながら(『楕円の学び』『スポーツ選手に対する美術教育実践の試み - 美術における学びの意味を考えるために』など)、美術教育が育てる力について考察してきた。「芸術が育てる力研究会」を主催して日本教育学会でラウンドテーブルを開催するとともに、現在は芸術のみならず「周辺教科」と言われる技能教科の学びの特質へと研究を展開している(『周辺教科の逆襲』)。美術教育に独自の人間形成的意義を探るとともに、現在の美術教育の抱える問題について問い直すことも目指す。

同時に、美的経験の人間形成的意義に着目している内外の研究者、ヨーロッパ教育学会の教育哲学・教育史グループに参加している海外の研究者とも意見交換をして進めていく。

4. 研究成果

研究期間を通して、毎年「美術教育の哲学的基礎づけ」についての研究会を開催し議論を行った。また、海外から2人の研究者を招聘し、ワークショップ及び意見交換を行った。研究機関を通じて国内外の学会に参加し、あるいは海外の大学を訪問して美学や教育哲学・教育史・美術教育の研究者と意見交換を行った。具体的な研究成果の内容としては、以下の点が挙げられる。

- (1) 美術教育の歴史的特性について、主にイギリスと日本の19世紀以降の展開についておおよその見取り図を得られたこと。

その際特にイギリスではヘンリー・コール、ジョン・ラスキン、日本では白浜徹、山本鼎を中心とした美術教育思想の布置連関を捉えたこと。

- (2) 英米日の美学及び教育哲学研究において美術教育がどのように捉えられてきたかを整理したこと。
- (3) 現代美術と政治哲学との接近から、美術教育の今日的意味について展望を得たこと。
- (4) 複数の国際学会に参加して、上記の研究成果を発表するとともに、海外から研究者を招聘、あるいはこちらから訪問することで教育哲学・美学・美術教育の研究者と意見交換を行ったこと。
- (5) 芸術に基づく研究(Art-based Reserach)という美術教育を研究するための新たな方法論へと本研究が展開する可能性を得たこと。
- (6) 5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

小松佳代子、『美術教育研究』の課題と展望 - 機関誌の19年をふりかえる、美術教育研究、20、pp.89-97、2015、査読無
樋口聡、ESDの概念についてのメモランダム、学習開発研究、9、pp.3-12、2016
金森修、The biopolitics of contemporary Japanese Society, 受容と抵抗、22、pp.137-151、2015、査読無
金森修、<自発的隷従>の回避へ、iichiko、125、pp.108-114、2015、査読無
金森修、<人間の尊厳>概念の超越的性格の根源性、24(1)、2014、pp.68-75、査読無
金森修、<理性>という砦、フランス哲学・思想研究、19、pp.39-42、2014、査読無
金森修、認識論とその外部 - 汚染と交歓、哲学、64、pp.25-41、2013、査読有
金森修、専門知と教養知の境域、近代教育フォーラム、22、pp.135-149、2013、査読有
Osamu Kanamori, Une Lecture materielle d'un poete japonais: Kenji Miyazawa, Revue de Synthese, 134-4, pp.373-389, 2013, 査読有

〔学会発表〕(計7件)

Kayoko Komatsu, Genealogy of Self Expression: A Comparative History of Art Education in England and Japan, The European Conference on Educational Research, 2015/9/10、Corvinus University、国際学会
小松佳代子、美術制作行為におけるモノ(もの)と人の関係、教育哲学会、

2015/10/11、奈良女子大学

Kayoko Komatsu, The Educational Thoughts of Utilitarianism: Focusing on the position of art education, ISUS 2014 (International Society of Utilitarian Studies), 2014/8/22、横浜開港記念館、国際学会

Kayoko Komatsu, The Educational Thoughts of Utilitarianism: Focusing on the position of art education, ISUS 2014 pre-conference, 2014/8/19、横浜国立大学

小松佳代子、モノによる趣味形成 - 「戦慄の間(Chamber of Horror)」をめぐる教育思想、教育思想史学会、2014/10/8、慶応義塾大学

金森修、認識論とその外部 - 汚染と交歓、日本哲学会、2013/5/11、お茶の水女子大学

金森修、<反自然性>の定位としての尊厳、日本生命倫理学会、2013/12/1、東京大学

〔図書〕(計6件)

金森修、科学の危機、238、集英社、2015

金森修、知識の政治学、380、せりか書房、2015

金森修、科学思想史の哲学、400、岩波書店、2015

金森修、大正新教育の思想、pp.89-138、東信堂、2015

カリキュラム・イノベーション、pp.123-135、東京大学出版会 2015

金森修、現代社会と人間への問い、pp.192-212、せりか書房、2015

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

児美川佳代子 (小松佳代子)

(KOMIKAWA KAYOKO)

東京芸術大学・美術学部・准教授

研究者番号：50292800

(2)研究分担者

樋口聡

(HIGUCHI SATOSHI)

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号：30173157

金森修

(KANAMORI OSAMU)

東京大学・教育学研究科・教授

研究者番号：90192541